

# あかやま



第 **323** 号  
学校だより384号

## グローバルスタディズプログラム

12月22日(金)~26日(火)の5日間に実施したグローバルスタディズプログラムに32名(1年生27名、2年生5名)が参加しました。本プログラムは、本校起雲館を会場に、国際理解教育プログラムの一環として、グループリーダー役の大学生6名、進行役1名、計7名の日本の大学に通う外国人留学生を招いて行う、5日間英語漬けの研修です。また、今年も双松会の「世界の人たれ!北高生」基金より参加費の助成をいただいております。

この5日間を通じて、生徒は様々な文化について理解を深めると同時に、英語での発信力を大きく伸ばした様に感じます。間違いやどんな発言であっても承認するというプログラムの理念も素晴らしいと感じさせられました。特に最終発表会では、一人一人がこの研修の成果の集大成と言える発表をしました。この5日間という短い間の研修の中で、それぞれの気づきがあったことを感じさせ、個々の成長が見て取れる素晴らしい内容でした。最終発表会を終え、プログラムが終わった生徒の顔は、安堵と笑顔が溢れ、生徒の顔に充実感が見て取れました。

今年も双松会ホームページを通じて、グローバルスタディズプログラム最終発表会をZOOMでリアルタイム配信し、日頃支援をいただいている双松会の方々に実際に生徒が活動している姿をご覧いただく機会となりました。会員の皆様ありがとうございました。

### 主な研修内容

- 12/22(金) オープニングセレモニー、自分自身の3つのポジティブな面について語る、Goal Setting Activity (このプログラムで自分が成し遂げたいゴールについてシェアする)、アクティブに質問する など
- 12/23(土) 効果的な英語プレゼンテーションについて学ぶ、Positive Mindsetについて考える、Project1: 地産地消プロジェクト など
- 12/24(日) Self-Awarenessについて考える、SDGsについてのディスカッション、プレゼンをする、Project2: SDGsゴール4質の高い教育をすべての人に など
- 12/25(月) Leadershipについて考える、自分の将来の目標についてディスカッション、学ぶことの意義(将来の目標達成のために)、プレゼンテーション原稿の作成 など
- 12/26(火) Project3:ダイバーシティ社会、プレゼンテーション準備、最終発表会(1人1人によるプレゼンテーション)、クロージングセレモニー など



## 理数科2年 サイエンス・カフェin 松江

2023年12月16日(土)に「サイエンス・カフェ in 松江」をNPO法人サイエンス・ステーションと松江北高校の主催で、くびきメッセにて開催しました。本企画は、松江北高校理数科で行なわれている教育活動を地域に紹介するとともに、誰でも自由な雰囲気の中で気軽にサイエンスの話題を楽しんでもらえるように毎年開催しているものです。

午前の部「クリスマスの季節に、子ども達へのサイエンスの贈り物」として、小学生対象のサイエンスショー企画と科学教室「松江北高校キッズ☆サイエンスプログラム クリスマススペシャル」を行いました。

科学教室は、本校1・2年生が先生役となって小学生に科学の楽しさを伝える企画で昨年度からスタートしました。今年度、第3回となる今回は物理分野がテーマで「電気と光のふしぎ」と題して、LEDが光るしくみをミニ・クリスマスツリーの工作をしながら学びました。小学生に伝えるための工夫や準備を重ねた先生役の生徒達からは「準備していく中で変更しないといけないうちに気付いたりして直前まで大変だったが、子供たちに喜んでもらえてうれしかった。」「子供たちに理解してもらえるような説明やスライドを考えることは、難しく時間もかかったが、自分達の勉強にもなった。」等の感想が聞かれました。

クリスマスサイエンスショーは、サイエンス・ステーションの皆さんによる企画で、どちらの企画も参加した小学生から好評で楽しんでもらえました。

午後の部は、これまで通りサイエンス・ステーションの講師による「サイエンストーク(講演)」の及び理数科2年生による「課題研究中間発表」をいずれも一般公開で行い



ました。本年度は、初めての試みとして本校の課題研究成果発表会と同じ会場を使っの同時開催となったことで、理数科の1年生も観衆として参加することができました。

「課題研究中間発表」のアドバイスタイムではサイエンス・ステーションの学生の方からテーブルを囲んで助言を頂いたりして、2月の最終発表会に向けて研究意欲を高めました。

理系に進む高校生にとって、将来大切になるサイエンス・アウトリーチのやりがいや楽しさを経験できるよい機会となりました。

### ●午前の部【新企画】

～クリスマスの季節に、子ども達へサイエンスの贈り物～  
「松江北高校キッズ☆サイエンスプログラム クリスマススペシャル」

①サイエンス・ステーションの皆さんによる「クリスマスサイエンスショー」

②本校1・2年生による科学教室「電気と光のふしぎ」

### ●午後の部

①サイエンス・ステーションの講師による「サイエンストーク(講演)」  
「宇宙の本当の大きさ」波多野 駿(総合研究大学院大学)  
「キラッって何だろう?」桑江 優希(広島大学)

②本校2年理数科(7班)による「課題研究中間発表」

数学班「循環節の研究」

物理1班「メトロノームの同期実験」

物理2班「新たな音で和音を作る」

化学1班「Dr. しじみの殻」

化学2班「溶質の違いによる凝固点降下の変化」

生物1班「手の汚れ」

生物2班「堀川の水で発電?」

## 1・2年 学習成果発表会

1・2年生合同の「学習成果発表会」を12月16日(土)にくびきメッセで開催しました。

2年生の生徒は、これまで「総合的な探究の時間」を利用しながら、自分の興味のあるテーマを選んで研究活動を進めてきました。当日は普通科の生徒がポスターセッションによる個人発表を、理数科の生徒はパワーポイントを用いてグループ発表を行いました。今年の発表会は、自分自身の興味・関心のあるテーマをより深めて欲しいというねらいから、普通科については個人での発表形式に変更しました。テーマの中には、普段の学習や生活の中から発展した疑問を深めたものもあり、研究成果について堂々と発表を行い、聞き手の生徒も真剣に耳を傾けていました。



また、2学期に実施した各種研修旅行(1年隠岐島前研修、2年普通科近畿研修、2年理数科関東研修)についての報告もあわせて行いました。発表を担当した生徒は、研修を通じて経験したこと、新たな気づきから次の行動に積極的につなげていきたいことなどを語っていました。

探究活動は、今日の学習成果発表会で終わるものではなく一生継続していくものです。今回の発表会を通じて、「自分とはどのようなものに関心があるのか」「これまで学んだことを自分の将来にどうつなげていくのか」についてじっくりと考える機会になったと思います。今後も生徒の皆さんが自分自身と向き合い、自分のことを自分で決めて形にする過程を大切にしたいと願っています。

## 「自分らしく、自分のペースで」

1R担任 高木 徹也

北高での3年間はいかがでしたか。特にこの1年間は、部活動、紅陵祭、進路選択などなど、様々なことがぎゅっと詰まった濃い1年ではなかったかと思えます。私も1年間ではありましたが、皆さんが悩みそして懸命に努力する姿、成長する姿を見てきました。目標を決めてその達成に向けて全力で努力したという事実は、皆さんの人生において貴重な経験となり、自信となるはず。有名なマラソン選手が「最初は先頭集団にいらなくても後で追いついて優勝する人もいれば、きついときに給水ポイントで一息入れて馬力を発揮する人もいます。人それぞれいろんな走り方があるんです。それも人生と一緒に。幸せをつかむために必要なのは、自分なりのゴールを決めることですね」と語っていました。卒業後もそれぞれの人生は続いていきます。北高での経験や学びをベースにして、自分らしい生き方をしてほしいと思います。

## 「感謝の一日」

2R担任 西尾 大樹

高校卒業は色々な人へ向けた感謝のタイミングでもあると思います。

まず友人。クラスの友、部活の仲間、高校入学以前からの親友など。ここでの出会いや経験はかけがえのないものになることでしょう。そんな友人としばし離れることになる日かもしれません。この3年間支えあい、笑い、そして涙した日々を「有難う」の気持ちで伝えて欲しいです。

次に学校行事、部活動の場面で力を貸してくれた後輩。やさしさだけでなく叱咤もあつたであろう先生方。みなさんに関わってくれた多くの方々にはあなた方を大きく成長するために礎造りをしてくださいました。もしかしたら知らないところで支えられていたりも助けられていたりしていたと思います。「有難う」の言葉を言い忘れないでくださいね。

そして、家族。家族と家で仲良く話す人、家で自分のことを話さなくなった人と様々かもしれませんが、この日だけは「有難う」を言うのが大事ですね。幼い時に、道につまずかないか心配していた子が、自ら道を切り開いていく成長を感じた卒業式で、感慨深くない人はいません。そしてこれからあなたたちを支えてくれます。

最後は自分にです。あなたたち一人ひとりも誰かに「有難う」の言葉をもらおうと思います。やさしさや思いやりをもった行動をこれからも忘れないでください。

人は一人では生きていけません。これからも色々な出会いがあると思います。その出会いがきっとみなさんを大きく成長させることと思います。今ある自分に感謝。「有難う」

## 卒業生のみなさんへ

3R担任 玉木 愛

みなさん、卒業おめでとう。みなさんと共に過ごした3年間は私の一生の宝です。みなさんを送り出す今、保護者の皆様をはじめ、先生方、我々を支えてくださった多くの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

3年前、入学したばかりのみなさんに、この「あかやま」でメッセージを贈りました。「たくさんの人と出会い、たくさんのお話を学び、力強く生きていけるか、いい人になってほしい」、「自分や周りの人たちの声にじっくり耳を傾け、思いやりあるやさしい人になってほしい」と。今もこの思いは変わりません。みなさんはまだまだ道の途中。これから本当の意味で自己の確立を目指さねばなりません。そんなみなさんに、最後にもう一つだけ、言葉を贈ります。

「孤独であって、充実している、人間とはそういうものである」(岡本太郎)

みなさんが人生の孤独や矛盾の中でも力強くありますように。そして、みなさんの人生が愛にあふれるものでありますように。心からそう願って、お別れです。ありがとう。

## Pay It Forward!

4R担任 池田 奈穂

みなさん、卒業おめでとうございます。高校3年間という皆さんの人生において貴重な時間を共にさせてもらったこと、本当に嬉しく思っています。いよいよ卒業を迎え、広い世界に出て行くみなさんに1つの言葉を紹介したいと思います。それは「恩返し」ならぬ「恩送り」です。「恩送り」とは誰かに親切にしてもらった恩を、その本人に「返す」のではなく、今度は自分が他の誰かに善意を「送る」ことで、善意の連鎖を生み出すという考え方です。

これまでの人生で、周囲の人にしてもらって嬉しかったことを思い出してみてください。そしてその「恩」をこれからの人生の中で、少しずつ次の人へ「送って」みてください。みなさんはこれから大人になり、自由になり、できることもどんどん増えていってほしいです。ここまでの自分を作り上げてくれた全ての人に感謝し、次の誰かのために自分が培ってきた力を使っていってほしいです。みなさんが人を愛し、人に愛され、豊かな人生を歩んでいくことを祈念しています。

## 「文字化け」だと思った人はあさはかです。いじけないでください。

5R担任 大國 晴吾

Төгссөнд тань баяр хүргэе! Хэрвээ та эдгээр дүрүүдийг уншиж чадвал Google Lens гэх мэт ямар нэгэн ICT төхөөрөмж ашигласан байх ёстой. Англи хэлний гэрийн даалгавар хийхдээ уг төхөөрөмжийг бүү ашигла. Энэ текст нь миний япон хэл дээр бичсэн зүйлийн машин орчуулга юм. Энэ нь кирилл үсэг (монгол хэлээр) юм. Ирээдүйд бид хэрэглэж болох бүх зүйлийг хамгийн үр ашигтайгаар ашиглах замаар амьдрах ёстой. Ийм нийгэмд бид тэдгээрийг хэрхэн ашиглах талаар бодох хэрэгтэй. Түүнээс гадна хиймэл оюун ухаан болон бусад технологийг ашигласнаар бараг бүх зүйлийг хийж чадна. Тийм учраас яаж өөрөө байх вэ гэдгээ бодох хэрэгтэй. (Би зөвхөн та нарыг ч биш, бас хоёр настай охиноо ч бас ийм хүч олж авахыг хүсэж байна.) Би ICT төхөөрөмж ашиглаж байхдаа өөрийн зан чанарыг хэрхэн илэрхийлж болох талаар бодож энэхүү захиасыг бүтээсэн юм. (Машин орчуулга өдөр бүр хувьсан өөрчлөгдөж байгаа тул энэ өгүүлбэрийг хэдэн жилийн дараа дахин орчуулбал агуулга нь өөр байж болно.) Энэ бол захиасын төгсгөл. Энэ нь маш хөгжилтэй, сэтгэл хангалуун гурван жил байлаа. Бид та бүхэнтэй хаа нэгтээ дахин уулзахыг тэсэн ядан хүлээж байна!

## 「徳を積む」 ~Now here~

6R担任 古川 志穂

「特に夢とか目標とかありません」。そういう気持ちで高校生活をスタートした人もいないでしょうか。そんな皆さんが、今日、晴れ舞台に立っています。卒業、おめでとうございます。10月くらいに、朝礼で「これから受験の日まで、徳を積もう。」と話しました。「何でもいから、『ちょっと面倒だけど、人や自分のためになるかも』と信じて、行動しよう、私も何か徳を積んでみる」と。毎日残って学習し、黒板の周りを掃除して帰ってくれる人がいました。教室の掲示物を整理してくれた人も。ある人は、みんなの役に立つかもと、学級日誌に数学の式を書いてくれました。チョークがないから取りに行こう、加湿器に水を補充しよう、電気がついているから消して帰ろう、そんなさりげない行動を起こす人達の姿を見て、私は「積む」という言葉の魅力や重みを感じていました。大人になったとき、若い時(=今)にコツコツと積んでいたことがきっと役に立ちます。将来のことを考えることも確かに大事です。でも、「今」何ができるのか考え、その今を大切にすることも価値があると私は思います。最後に英単語についての鉄板ネタですが、Nowhere「どこにも～ない」という単語。スラッシュを入れてみると、Now here「今、ここで」ですね。将来の自分のために、「今、ここで」できることを積んでいこう。また会える日を楽しみにしています。

## 選 択

7R担任 大峠 昌裕

ご卒業おめでとうございます。みなさんは3年間の学びの上に進路を選択し、これから様々な人生を歩んでいくことになります。

これからの人生でも選択する場面に巡り合います。その時に助けとなるのが、経験や学んできた知識です。それでも大きな選択の前では、迷いが生じます。人から助言をもらっても、自問自答を繰り返しても決まらないような究極の選択が迫った時、それは「最良の選択肢」と言えます。どちらを選択しても大丈夫です。そこからはやり方を大切にし、実行に時間をかけます。ただし、間違えた選択をしてしまわないように、「無理・無茶・無謀」の違いを知っておきましょう。「無理: 実現するのが困難なこと」「無茶: 道理に合わない、程度がはなはだしいこと」「無謀: 結果に対する深い考えのないこと」です。「無理」とは絶対的な否定ではなく、困難なことなのです。「無理」をしなければいけない時もあります。自分の選択に勇気を持って進んでいきましょう。しかし、当たって砕ける精神だけでは、何も得られないことがあります。勇気ある撤退も必要です。なお、「無謀」は取り返しのつかないことになる場合があるので、選択はしないでください。

これから、みなさんがより良い選択ができることを願い、信じています。

# 担任から 卒業生へ 贈る言葉

